

# 大気汚染問題に対する中国の新聞報道の変遷からの再考 —リスク社会におけるリスクコミュニケーションの構築に向けて—

XU JUNQING

現在の中国社会は、さまざまなリスクの影響を受けながら、まさに世界的規模のリスクだけでなく、中国固有のリスクへの対応に迫られる複雑な時期に突入している。急速な経済成長の反面、それに伴い発生してきた深刻な環境汚染が世界的な注目を集めている。深刻かつ複雑な環境問題を克服し、持続可能な社会の構築に向けて、政府が主導するのみならず、市民との協働が不可欠となる。こうした実情に鑑み、市民の環境リスクに対する認知を向上させること、更には、環境問題に対応できるリスクコミュニケーションを構築することが重要となると考えられる。そこで本論文では、グローバルな視野から近年特に注目されている中国の PM2.5 問題に着目し、中国のリスク社会におけるリスクコミュニケーションの視座から論じることを目的とした。特にメディアは、市民が情報を入手する際の重要な手段であり、「見えないリスク」を可視化し、情報ニーズを満足させることができる一方で、認知や態度、行動に影響を及ぼすため、リスク社会に突入している中国社会において、その役割が益々重要となると考えられる。よって本研究では、「新聞」という媒体に焦点を絞り、その報道内容を分析し考察を深めた。

まず、第 2 章においては、中国における大気汚染問題、特に PM2.5 問題の現状並びに政策がもたらす影響を概観した。続いて中国の環境ジャーナリズムの歴史の変遷を踏まえ、PM2.5 問題報道をめぐる先行研究を整理しながら、課題を抽出しつつ新たな視点を設定した。すなわち環境ジャーナリズムおよび社会構造における長期的変容を考慮した歴史性を踏まえつつ、リスク認知並びにリスクコミュニケーションの視点から、大気汚染問題に関する新聞報道を再考することの重要性を指摘した。

以上を踏まえ、第 3 章では、まず 1970 年から 2011 年までの「人民日報」における大気汚染問題報道に対する内容分析を行った。内容分析は、コミュニケーション研究の代表的な方法であり、「何が・どのように表されるか・伝えられるか」というコミュニケーションの要素を客観的、体系的かつ数量的に判断することができる。同時にそれらの結果を踏まえながら、報道内容や形式等の変遷、社会背景との関連、更に市民の認知への影響について分析した。その結果、40 年間にわたり、メディア報道は、政府が大気汚染問題を重視してきたことが確認でき、それにより社会が、より大気汚染問題に注目するようになったことがわかった。すなわち政府の主導により、市民参加と社会全体における包括的な姿勢の形成が促進された。

また、第 4 章では、環境リスクである PM2.5 問題が暴露され、報道が激化した 2012 年以降の新聞報道について第 3 章と同様な方法により分析した。全国紙である「人民日報」、そして北京市内の地方紙である「北京日報」と長江デルタ地域を足場とした地方紙である「文匯報」という特徴ある三つの新聞を対象とし、社会背景を考慮しながらそれぞれの新聞報道の特徴を具体化した。従来の大気汚染問題の報道と比べて、PM2.5 問題の報道は量が増え、環境問題の特性に留意し、社会問題の特性にも注目していることが分かった。「北京日報」と「文匯報」は地域の PM2.5 問題の特徴に基づき、報道活動を展開した。また「北京日報」は京津冀地域における政策とその影響を報道し、「文匯報」は専門家の視点から南北地域における汚染の原因を分析し、一般市民向けの提案を報道した。

以上の分析を踏まえ、第 5 章では大気汚染報道の長期的変容の観点から、報道が市民寄りになる傾向と、多様化する市民へのアプローチ方法を取り上げ、リスク社会におけるコミュニケーションの変化を論じた。さらに、新聞報道におけるリスク社会とメディアの関係について、リスクの予告機能、リスク情報のニーズ充足機能、リスクに対する不安の低減機能、科学教育・リテラシー育成機能というリスクコミュニケーション

ンが果たすべき社会機能の観点から再考した。これらの結果、対象とした三つの新聞は PM2.5 問題に関して、4つの機能とも果たしているものの、なお限界があることもわかってきた。

本稿の結論として、第 6 章では、大気汚染問題に関する報道の歴史的変容と、リスク社会の進展に伴い生じる報道の変化について総括し、またリスクコミュニケーションの観点から再考した結果に基づき、PM2.5 問題に関する新聞報道の特徴と限界を総括した。その上で、新聞報道研究を超えた、環境リスクに関するコミュニケーションの効果の持続に向けて、ネットメディア等を含む包括的にリスクコミュニケーションを考察すること、また相互的な視点で市民側の報道の見方や媒体の選択等を調査することの必要性に触れ、今後の研究の展望とした。(環境行動学)